

事業番号5	平成 25 年度事務事業評価調書			資料01		
事業コード	03040102	区	分	<input type="checkbox"/> 実行	<input checked="" type="checkbox"/> 経常	
事務事業名	各種公民館事業	担当部署名	教育課			
		作成責任者職氏名	課長 中野光二	内線	650	
第4次総合計画体系	(基本柱)	(基本施策)	(細施策)			
	03教育・歴史・伝統	04生涯学習の充実	01生涯学習の推進			
実施期間	<input type="checkbox"/> 単年 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 (年度 ~ 年度)		実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助等		
根拠法令等	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	法令等の名称	義務付け	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無		

I 事務事業の概要<Plan>

(1)事務事業の目的及び内容		(2)対象(誰を対象とするのか)	
<p>①目的</p> <p>村民の生涯学習の充実を図ることを目的とする。</p> <p>②内容</p> <p>ふれあい展・コンサートやおはなし会・人形劇などを実施する。</p>		<p>村在住・在勤者</p>	
(3)期待される効果(本事業によって対象者をどのような状態にしたいのか)		(4)事務事業を進める上での課題や問題	
<p>・生きがいづくり</p> <p>・世代間交流</p>		<p>より多くの人に学習機会を提供するための事業内容等の検討が必要である。</p>	

II 事務事業の実施<Do>

(1)事務事業の事業費及びコスト費								
		23 年度 実績	24 年度		25 年度 事業費(見込)	26 年度 事業費(見込)		
			事業費(予算)	実績(見込)				
事業費(見込含む)(千円)(A)		251	323	224	290	300		
財 源 内 訳	国庫支出金							
	府支出金							
	分担金・負担金							
	使用料・手数料							
	起債							
	その他の特財							
一般財源		251	323	224	290	300		
人 件 費	一般職員所要人員(人)(B)	0.40	0.40	0.40	0.40	0.40		
	一般職員人件費(平均給与×(B))(千円)(C)	2,218	2,218	2,218	2,218	2,218		
総コスト費(千円)(A+C)		2,469	2,541	2,442	2,508	2,518		
人口あたりコスト(円)		407	419	403	414	416		
(2)成果指標等								
番号	指標区分	指標名称	単位	24 年度			25 年度 目標値	26 年度 目標値
				目標値	実績値	達成率(%)		
①	目標指標	お話し会・映画会・人形劇参加人数	人	300	475	158%	500	500
②	目標指標	ふれあい展	人	400	447	112%	520	520
③	目標指標							

○目標指標評価値(達成率平均値) 270% / 2 = **135%** (A)

(1/2)

Ⅲ 事務事業の評価<Check>

(1)成果の自己検証			
評価項目	評価結果		評価の理由及びその考え方
①妥当性 ※施策の目的が村の政策体系に貢献しているか	4	4. 大いに貢献している 3. 概ね貢献している 2. あまり貢献していない 1. 貢献していない	生涯学習の機会拡充、交流人口の増加を図るための施策であり、妥当である。
②有効性 ※期待された効果が得られているか	3	4. 効果がある 3. 一応の効果がある 2. あまり効果がない 1. 効果がない	ふれあい展・コンサートでは、昨年より多くの人に参加している。
③効率性 ※効率的に進められているか	3	4. 非常に効率は良い 3. 概ね効率は良い 2. あまり効率は良くない 1. 効率は良くない	ふれあい展・コンサートでは、村の団体が集まり、実行委員会形式により効率的に進めている。
④公平性 ※受益や負担が公平になっているか	2	4. 公平である 3. 概ね公平である 2. 少し偏りがある 1. 公平ではない	映画会や図書室で行うたなばた会やクリスマス会の催しと合同で、おはなし会を行い、絵本にふれる機会を増やす。
○事務事業評価値 (①～④の合計/16)	12	75%	(B)

(2)検証結果			
目標指標評価値 (A)	事務事業評価値 (B)	総合評価値 (A)+(B)/2	評価ランク(改善の目安)
135%	75%	105%	a
a: 90%以上(現状維持又は拡充) d: 30~49%(休止・廃止又は縮小) b: 70~89%(見直し又は現状維持) e: 30%未満(休止・廃止) c: 50~69%(縮小又は見直し改善)			

Ⅳ 事務事業改善の方向性<Action>

(1)改善の方向性	
①改善の方向性(自己評価)	②改善の方向性の理由、改善する上での具体的な改善策や課題等
B	← A: 拡充 B: 現状維持 C: 見直し D: 縮小 E: 休止・廃止
ふれあい展は、人数増であったので現状維持していけるよう努めるとともに、映画会とおはなし会、おはなし会、ふれあい展など行事を合体させ、効率よく事業展開を図る。	

Ⅴ 事務事業評価結果(担当者は記入しないでください。)

(1)政策担当結果	
(2)第三者による有識者会議結果	(3)行政経営戦略会議結果
村民の学習機会の拡大に向け、引き続き実施すべきと考える。また、学習機会の拡大につながっているか、検証しながら効率よく事業実施を図るべきである。	「子どもを育て、親を育て、自分も育つ。～教育の充実が村を変える」総合計画の基本方向を学校教育と社会教育の双方から生かすことを考え直す必要がある。学校教育、社会教育の融合を考慮する視点で拠点を学校の空き教室や既存施設に置くことにより乳幼児、母親、高齢者が集える場ができれば在学している児童・生徒にも教育効果がある。また、学生等のボランティアを活用できないか。個々の事業の参加者数の推移とその変化の要因を検討する必要がある。
村民の学習機会の拡大に向け、既存事業を検証し、効率よく事業実施を図るとともに新規参加者を増やすための検討も必要であると考え。	